

2020年8月16日

造血幹細胞移植後に非結核性抗酸菌症による肺炎を 発症した症例の検討

京都第一赤十字病院呼吸器内科では、様々な臨床研究をおこなっており、今回上記表題のとおり、造血幹細胞移植後に非結核性抗酸菌症による肺炎を発症した症例の検討をおこなっています。実施にあたり京都第一赤十字病院倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長より、適切な研究であると承認されています。

研究の目的

多くの血液疾患において、造血幹細胞移植 (hematopoietic stem cell transplantation: HSCT) は非常に重要な治療です。その HSCT 後の感染症として、発症頻度は比較的稀ではありますが、非結核性抗酸菌症 (Nontuberculous mycobacteria: NTM) があげられます。近年、NTM は増加傾向にあり、移植数の増加や移植された方の予後延長から、HSCT 後の患者様においても NTM 感染が増加する可能性があり、易感染状態にあるために重症化する可能性も考えられます。このため、HSCT 後の NTM 感染の実態を明らかにすることは重要であると考え、当院での HSCT 後の肺 NTM 感染症について後方視的検討を行いました。

研究の方法

対象となる方について

2016年1月1日から2018年12月31日の3年間に HSCT を施行された方で、移植後に NTM 症を発症した患者様を対象とします。

研究期間：

調査対象期間：2016年1月1日からの2018年12月31日まで

方法

診療録より上記期間中に HSCT を施行され、NTM を発症された方を検索し、後方視的に検討します。

研究に用いる試料・情報について

情報：原因菌・年齢・性別・基礎疾患・移植方法・使用した免疫抑制剤・GVHD の有無・合併症の有無・転帰など

個人情報の取り扱いについて

研究のために当院で集めた情報は、学会・論文発表以外に使用されることはありません。また、発表に使用する際はあなたのお名前を使用することはなく、日時なども詳細に記すことはありませんので、読者などの第三者にも個人が特定できることはありません。この研究で得られた情報は個人情報管理者および個人情報分担管理者の責任の下、厳重な管理を行います。

情報の保存および二次利用について

カルテから抽出した情報は原則としてこの研究のために使用し、研究終了後は、カルテから抽出した情報は廃棄します。ただし、新たな研究への再利用について、倫理審査委員会においてその可否が審査されます。

研究組織

研究責任者、研究代表（統括）者：

京都第一赤十字病院 呼吸器内科学 部長 平岡 範也
医長 辻 泰佑
医員 大村 亜矢香

お問い合わせ先

患者さんのご希望があれば参加して下さった方々の個人情報の保護や、研究の独創性の確保に支障が生じない範囲内で、研究計画及び実施方法についての資料を入手又は閲覧することができますので、希望される場合はお申し出下さい。

京都第一赤十字病院 呼吸器内科

職・氏名 医員 大村 亜矢香

電話：075-561-1121